

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善、及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準偏差値を上回る。

3. 指標にむけての取組

○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る活動の実施

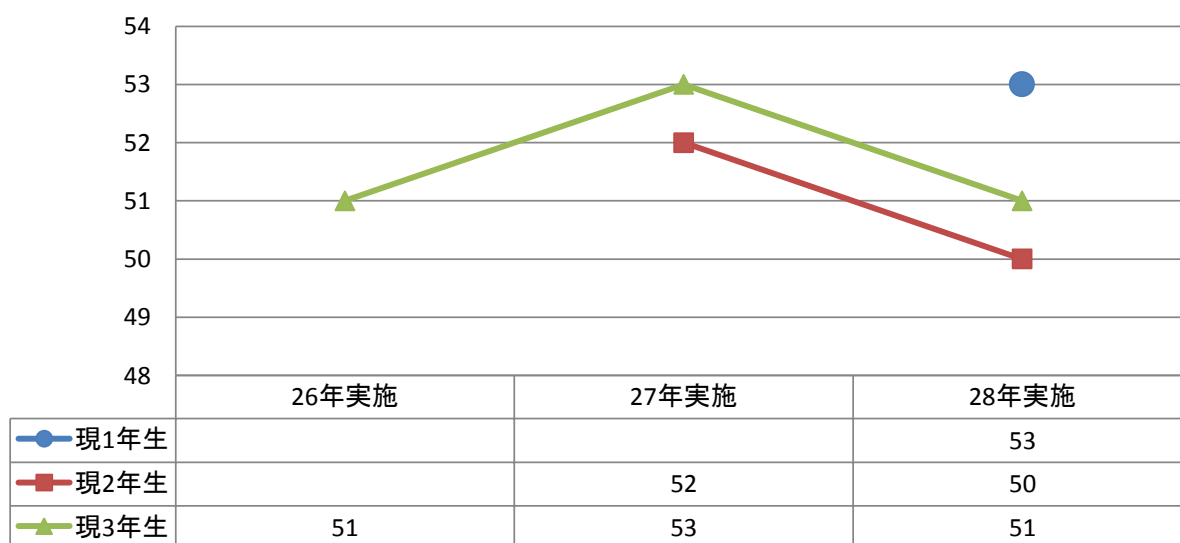
- ・学力調査の分析結果を基にした苦手分野の繰り返し学習の取組
- ・授業と連動した家庭学習の実施・点検・評価の徹底(自学の充実)
- ・授業アンケート(生徒による授業評価)の実施と結果を受けた教師の授業改善策の生徒への提示

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
本校(A)	51.3	51.3	52.3	52.6	51.3
嘉麻市(B)	45.6	45.6	46.6	47.0	47.3
(A) - (B)	5.7	5.7	5.7	5.6	4.0
標準偏差値との差 (A) - (C)	1.3	1.3	2.3	2.6	1.3

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・昨年度から本年度にかけて成績が下がっている要因の一つとして、指導者が一生懸命になりすぎ、適切に評価することなく徹底した反復練習をしすぎたため、意欲を萎ませたり、自信をなくさせたりしたことが考えられる。徹底のさじ加減と評価の在り方が問題である。また、子ども同士の間関係のトラブルが多発したこともその要因の一つだと考える。

6. 各学校における今後の取組

- 知識技能中心の問題出題から、活用力、読解力を意識した問題へと出題傾向が変わってきたので、繰り返し学習、ドリル学習を状況に応じて適切に行うことと、問題解決的な学習を行うこと。これを両輪として授業経営を行っていく。
- ・生徒が問ややる気をもつよう、導入に工夫のある授業を行う<校内研究の日常化>。
 - ・評価活動を充実させる。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
 - ・効果のあった授業モデルを提示する。
 - ・中学校教科教育研究会を年間4回開催し、授業公開及び授業改善に関する協議を行う。
 - ・ユニバーサルデザインの考え方に基づく実践等の情報提供を行う。